

集落協定 かわら版 (第7号)

(平成15年12月26日 山口県農村振興課)

田万川町小川 友信協定

面積 田/急傾斜 5.4ha

田/緩傾斜 11.4ha

参加者 19人・組織

交付金 205万円

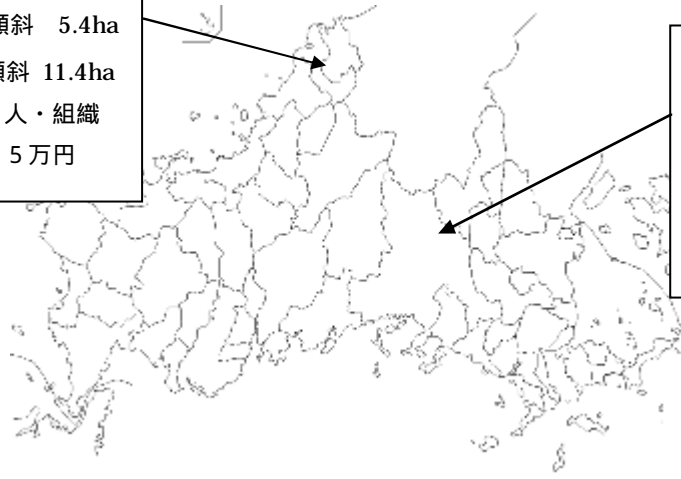
周南市鹿野 西河内西協定

面積 田/急傾斜 3.7ha

田/緩傾斜 36.0ha

参加者 52人・組織

交付金 370万円



計画的に農道舗装、ヘリ防除

・・・周南市鹿野(かの)西河内西(にしがわちにし)協定・・・

周南市鹿野の西河内西協定の河西幾雄さん(77)を訪ねました。

西河内は鹿野地域で最大の協定ですね。

「40haで370万円、52人の協定です。農地はまとまっている方ですね。」

「この地区の農業の特徴は、水稻種子の生産が多いと言う点です。隣の協定まで入ると、町内の種子生産面積の約7割の30haの作付けがあるんですよ。」

さて、集落協定の話し合いはどのように進みましたか。

「平成12年の7月頃に、井出、水路の改修の話が出ていたので、ちょうど良かったという感じでした。実施したい事業があったので比較的スムーズに協定の締結ができたと思いますよ。」

圃場整備がしてあるので改修は不要だと

思いましたが

「昭和51年から圃場整備を行ったので一応の整備は出来ていますが、水路改修などは定期的に必要になってくるんです。」



(代表の河西さん)

協定ではどのような活動をしていますか。

「水路改修の他に農道舗装をしています。やはり経費がかかりますから3年計画で実施しています。」「特に急傾斜地の舗装を重点的に行っています。傾斜があると言うことはそれだけ条件が悪いし、勿論それによって交付金も沢山交付されますから。」



(舗装された農道)

その他に無人ヘリの防除を推進していると聞きましたが。

「平成12年に種子生産者を対象にして無人ヘリ防除を進めてきました。翌年からは協定締結を契機にもっと広く推進してきました。ヘリ防除の効果もあるし、交付金は全額共同活動に配分していることもあったので、経費は共同分から支出することにしました。10aあたり2回の防除で6,400円です。今では、ほとんどの農家が無人ヘリを活用しています。」

全額共同経費から出しているんですね。

「初めは、無人ヘリのオペレーター育成を検討していたんですが、人材不足で、思うようにいきませんでした。交付金は全額共同配分ということにしていたから、みんなが足並みを揃えてヘリ防除に取り組むようにと思って、全額共同配分から出すことにしたんです。」

多面的機能増進活動は何を行っておられますか。

「景観作物の栽培をしています。春にコスモスを播き、夏にはソバを播きました。先日は夫婦同伴で忘年会を兼ねてソバうちもしました。11月には菜の花を播いたので、春には黄色い花が楽しめそうです。ただ、地域全体に活動の輪が広がっていない

点は課題ですね。」

「その他に、老人会の花壇整備などもあります。」

話は変わりますが、採種組合の法人化を検討しているそうですね。

「採種組合は39人と1法人がメンバーです。組合ではこれまでコンバインなどの機械の共同化をしてきています。今は機械はJA所有となっていますが、共同組織としての体制は良くできていると思います。」

「採種組合では、法人化して作業受託を始め、将来的には農業経営も視野に入れて現在検討中です。平成16年3月頃には設立したいですね。」

「やはり高齢化が進んでくると、組織作りをしていかないと、中山間地域の農地は守っていかねえから。」

「西河内は種子生産を中心とする営農が行われているので、採種組合の組織充実、西河内の営農体制の充実にも貢献すると思いますよ。」

「農業生産法人の『有限会社鹿野アグリ』が地元の農地10haを耕作していますが、こういった組織との連携も必要になって来ますね。」



(無人ヘリ作業)

計画的な農道舗装、採種組合の法人化な

どの組織づくり。コスモスやソバの作付けとソバうち忘年会。着実に取り組みが進んでいますね。（田中）

イノシシ対策・生産組合活動・神楽伝承

・・・田万川町小川（おがわ）
友信（とものぶ）協定・・・

田万川町小川、友信協定の青木慶司さん（65）を訪ねました。



（代表の青木さん）

友信は畜産農家が多いと聞きました。

「そうです。22戸のうち6戸が畜産農家（繁殖、肥育）です。ですから、転作作物は飼料作物の栽培が多いんですよ。栽培は耕種農家が行い、刈り取りは畜産農家が行う方式です。」

なるほど。耕畜連携が自然と出来ているんですね。

さて協定締結までの状況を教えてください。

「役場から初めに話があったのは自治会を通じてでした。ただ、農事組合や農業生産組合があるので、一緒に検討しました。」

「地区内には色々と組織があるので、集落協定については若い人に役員を頼もうと思ったんですが、勤めがあるので無理でした。

それに返還規定があったので、みな尻込みしたようなところもあったかなあ。」

「でも、メリットのある制度だったので、最終的には生産組合の主要メンバーが役員になって取り組むことになりました。」

協定ではどんな活動をしていますか。

「イノシシの被害があるので、防護柵設置の助成をしています。トタンや電牧などの設置・補修を行うようにしています。」

「それから草刈機を購入しています。」

「水路掃除はこれまで各自で行っていましたが、協定を契機に4班体制で共同作業を行うようになりました。」

多面的機能増進活動は何をしておられますか。

「周辺林地の草刈りをしています。それぞれの農地に隣接した山ぎわをきれいに刈るようにしました。」

「山が迫ってきていましたが、結構綺麗になりました。それに、昔から畜産農家が多かったせいか、この地区の農家はみんな草刈りは丁寧なんですよ。」



（山ぎわがきれいに刈られている）

神楽があるそうですね。

「友信神楽保存会があります。県の重要無形文化財の指定を受けています。出かけて行って公演をすることもあるんですよ。子供神楽がありますが、子供13人のうち

地元は2人だけです。ちょっと寂しいけど。」

生産組合があるということですが。

「友信農業生産組合があります。コンバイン、ディスクプラウ、サブソイラーを持っています。」

「協定締結後2人が農業を辞めたので、農地は別の人が管理していますが、今後は益々このような事が想定されるので、生産組合でも話をするようになってきています。」

「田植えや収穫作業は作業委託が出来ますが、途中の管理や草刈りなどは人海戦術のような所があるので、ここが課題ですね。」

「最近では、シルバー人材センターに頼む例もあるんですよ。」



(友信集落)

なんでも自分たちで作ってしまうそうですね。

「組合の機械の格納庫も、みんなで作りました。電柱を買ってきて地区内の大工から指導を受けながらみんなで作りましたよ。」

「他にも、鎮守の鳥居もコンクリートでみんなで作りました。山まで運ぶのは重かったよ。みんな器用だし結束力があるからね。地形的にまとまった集落だからかなあ。」



(機械の格納庫をみんなで建設 S59年)

イノシシ被害対策は中山間地域共通の悩みです。格納庫を自分たちで作ると言うのには驚きました。

生産組合を中心に地域の将来について検討が進むことを願っています。(西村)

~~~~ 編集後記 ~~~~

6月から、直接支払制度研究会を設置し、現行制度の問題点や課題について研究を行ってきました。

集落協定の活動を協定農地だけに限定してしまうと、地域全体の営農の発展を阻害するのではないかという問題点を感じています。

あなたの協定はいかがでしょうか。

国では、平成16年1月から、制度の実施状況の評価や制度の課題を検討開始する予定です。8月頃には、次期制度に関する動きがわかってくると思います。

県では、制度継続とともに、制度内容の改善に向けて要望活動をしていく予定です。

(西村)